

ドイツの歴史の伝えかた

赤松 凜

はじめに

私は大学の第二言語としてドイツ語を履修しています。ドイツ語の先生がドイツ語を習うにあたってドイツの歴史を知っておいたほうがより身近に学ぶことができると言っていました。またドイツは自分たちが犯した残虐な行いなどの証拠をしっかりと残していると聞いていたので、きちんと自分の目で何があったのかを受け止めてそれをどのように後生に残していくべきか考えようと思い調査することにしました。

最古の強制収容所・ダッハウ

ドイツのミュンヘン北西部にあるダッハウ強制収容所は、ナチスが1933年に設立した最初の常設強制収容所でした。そして後の強制収容所のモデルになりました。人々は窓もない列車に長時間乗せられてダッハウ強制収容所に辿り着きます。収容所の門には「働けば自由になる」と表記されています。その言葉を信じて裏切られた人がどれほどいたのでしょうか。



「働けば自由になれる」

列車を降りてすぐにドイツ兵による選別

が行われます。男性、女性、子供に分けられました。労働ができないと見込まれた人や子供はシャワーを浴びるといわれガス室に連れていかれて虐殺する収容所もありました。ダッハウ強制収容所はガス室がありますが、ガス室での虐殺は行われていなかったといわれています。選別されたあと衣服をすべて脱ぐことを強制され髪の毛を切られます。人々は過酷な日々が始まることを感じ始めるのです。



実際に使われていたのを復元した鞭打ち台

朝晩に点呼が行われ、一人でも足りなければ何時間も立たされます。また点呼で広場に集められるときに見せしめとして鞭打ちの刑が行われることがありました。打たれる回数は25～30回ほどでしたが回数を自分で数えなければならず、痛みで回数が聞こえなかったりするとその数を含まず一からやり直しされます。また囚人たちが入ってはいけない場所にわざと囚人の帽子を投げ入れて、それを取りに行かなければ正装をしていないと殺されて、帽子を取りに行っても無断でその場所に入ったとして射殺するといったような残酷なことも行われていました。収容所には守られるべき人権が全くありません。トイレは一つ一つを区切る壁も前を遮る扉もありません。また、定員250人の収容棟20棟に1,600人ずつ詰め込まれていたそうです。

人体実験

またダッハウ強制収容所では人体実験が行われていました。それは「超高度実験」と「冷却実験」です。これらはドイツ空軍のための実験でした。「超高度実験」は、高度の低気圧に人間がどこまで耐えられるかということ調べるための実験です。この実験に関わった囚人はほとんどが死亡したそうです。生き残ったとしても重大な後遺症が残りました。「冷却実験」は冷たい海面に落ちたパイロットを救出できるかどうかを調べることを目的とした実験でした。冷たい海面につけるなどをして囚人を凍死させた後に蘇生が可能かどうかということ調べる実験が行われていたそうです。

今を生きる私たちへの警告



ガス室前に建っている銅像

この銅像には「ここで亡くなられた方には、敬意を 今生きている人には警告を」と書かれています。歴史は繰り返すという言葉聞いたことがあります。その言葉の意味を、この銅像を見て、改めて戦争を二度と起こしてはいけないと感じました。



戦時中の実際の映像

ダッハウ強制収容所の中にある博物館の中の写真です。この映像は強制収容所でどのように人々が暮らし亡くなっていったのかがわかるものでした。この映像の中にやせ細って亡くなっている方々がトラックに乗せられている映像が流れていました。強制収容所で亡くなっていった方々は虐殺、チフス、栄養失調など、どれも残酷な亡くなりかたです。食べ物を中心に与えられない状態で一日中働かされ、作業中に亡くなる方もたくさんいたそうです。映像はすべてドイツ語で、何が書かれていて何を説明してあるのかを確実に確かむことはできませんでしたが、映像に写る方々の表情や見た目でもどのような状況で生きているのかを感じ取ることはできました。



モニュメント

1945年4月29日、人々はダッハウ強制収容所から解放されました。このような残酷なことがあったということを忘れてほしくないという方々の気持ちが通じダッハウ強制収容所は今もこのように残っています。このモニュメントは人々がもがき苦しんでいるように見えます。ダッハウ強制収容所に入ってすぐにこのモニュメントを見たとき

は何を表現しているのか読み取ることができませんでしたが、博物館で戦時中ここでどのようなことが起きていたのか、人々はどのような暮らしをしていたのかというのを写真や映像を見た後にこのモニュメントを見ると、その時代に生きていた人々の気持ちが表現されているのではないかと感じ取ることができました。

ドイツの歴史教育

ドイツでは「過去の克服」に力を入れています。「過去の克服」とはナチスの不法によって被害を受けたヨーロッパ諸国の人々に対する補償と謝罪であり、ワイツゼッカー大統領が「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」と言っていたことが日本でも有名です。ドイツではユダヤ人の強制収容所への収容や虐殺について多くの史料や研究文献から引用された教科書を使って授業を行い、詳しく説明しているそうです。そして、経緯とその背景に触れながら同じような過ちを犯さないように高校時代からナチスの犯した犯罪や、その責任についてより深く学んでいきます。

まとめ

私の祖母が原爆経験者ということもあり小さい頃から原爆が落とされた時の状況やヒロシマにいた人々がどう亡くなっていったのかという話を何度か聞いたことがあるので、戦争がどれほど多くの尊い命を犠牲にしたものかを知っているつもりでいました。しかし、今回ダッハウ強制収容所を訪れてまだまだ知らないことはたくさんあるのだと実感しました。日本の戦争中のことだけを学んで知った気になっている自分が

恥ずかしくなりました。ダッハウ強制収容所で行われていた人体実験や鞭打ちなどが今、自分が立っているところで本当に起きていたのか、信じられないほど残酷で、人間がこんなことをしたのかと何度も疑いました。そしてそのような出来事が起きていた日からまだ70年しか経っていないのです。戦争がなければ今も健康に暮らしていた人が何十万人いるのだろう。女性であっても髪の毛を全部切られて、門をくぐった瞬間から名前は消え番号で呼ばれる日々に希望という言葉はあったのでしょうか。このようなことが実際に起きていたということをお忘れしないことはもちろん、このことを伝えていこうと思いました。また、今回ドイツがどのように歴史を伝えていっているのか調べてみて、私が日本史で学んできた原爆や特攻隊などの第二次世界大戦中に日本で起きていたことの知識よりもたくさん自分の国が戦時中に行っていたことを学んでいて、また、そこからその責任についても考えていて見習うべきだと思いました。私は将来、高校の教師になりたいと考えています。総合学習の時間などを通してドイツ滞在中に得ることができたこの知識をきちんと次の世代に受け継ぐことのできるように、ナチスが行った政治やナチスが支持されるようになった経緯なども学んでいきたいです。そして原爆ドームや沖縄戦跡国定公園などに訪れ日本人が経験した戦争の怖さも調べていこうと思います。この調査を通していかに自分がまだ70年しか経っていない戦争という悲劇を知らずに日々を過ごしていて、このような機会がなければ調べようとしていなかった自分に驚きました。一度学んだだけ、一度訪れただけで終

わりにせずに定期的に考える機会を設けていこうと思いました。

<引用・参考文献・URL>

・ドイツは過去を克服したか
日本政策研究センター

<http://www.seisaku-center.net/node/249>